

とけい(1)

日時：10月12日(金)第5校時

学年：第1学年 28名

指導者：長尾 英里

糸崎小学校で育てようとする資質や能力及び態度

* は今年度の重点項目

①課題発見・解決能力 ②思考力・判断力・表現力

③コミュニケーション能力

④主体性・積極性

⑤回復力

⑥協調性・柔軟性

⑦自らへの自信

1. 単元について この単元は

児童は

本単元は、小学校学習指導要領の算数科第1学年の内容C測定(2)時刻の読み方(ア)日常生活の中で時刻を読むこと。(イ)時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けることを受けて設定している。

時計を観察したり、実際に時計の針を動かしたりする活動を通して、〇時・〇時半の時刻を時計から読むことができるようになる。これらの学習を通して、時刻に関心を持ち日常生活や学校生活の場面と算数の学習をつなげることができる単元である。

本学級の児童は、時刻を学習することが初めてである。これまで日常生活の中で時計を見たり時刻に着目したりする機会はあったが、〇時〇分と時計を見て正しく時刻を読むことができる児童は少ない。

本単元に関わる事前のレディネステストでは、「〇時」という時刻を時計から正しく読むことができる児童は92%であったが、「〇時半」という時刻を正しく読むことができた児童は46%だった。このことから、〇時・〇時半の時計の針の状態を注意深く見て行動している児童は少ないと言える。

また、どの教科に対しても、課題に対して意欲的に取り組もうとする児童が多い。しかし、視覚支援や具体物が必要な児童もおり、これまでの算数科の学習においても理解度の個人差があった。

指導の手立て

本単元の指導に当たっては、時刻を正しく読むことができるようになるだけでなく、日常生活や学校生活の場面に関連付けて考えることができるようにする。主体的に学習が進められるように、単元の初めには質問づくりを行い、児童が「時計を見て自分で行動する」という単元のゴールを明確にして学習に取り組めるようにする。単元のゴールを達成するために、「時計を読めるようになる」、「時刻を聞いて時計の針を動かせるようになる」と見通しをもって学習できるようにする。

前時には、時計を観察する活動を行うことで、短い針や長い針があること、数字が書いてあることに気付かせ、時間が経つとどのように針が動くのかに着目させる。これらの活動を通して、全員が時計の仕組みを理解できるようにしたい。

本時では、Iチャートを使い、〇時と〇時半を分類させ、その時の針の動き方を考える活動を行う。時計の針の状態を比べさせることで、〇時のときには、短い針が数字のところまでぴったり止まっていることや長い針が12を指していることに気付かせたい。〇時半のときには、短い針が数字と数字の間を指していることや長い針が6を指していることに気付かせたい。これらの気付きから、〇時・〇時半を正しく読み取ることができるようにしていく。

また、学習が算数の時間だけで終わらないように、日常生活に結び付けて考えさせていく。児童が興味をもっているアニメの開始時刻を、時計から読み取らせたり時計の針を動かしたりする活動を行う。学校生活の中でも時計に着目させ、主体的に生活の予定を考えたり、時刻の見通しをもって行動したり、時刻を守って楽しく生活することができるようにしていきたい。

2 単元目標と評価規準

観点	目標 (○内は育成を目指す資質能力の番号)	評価規準
知識 技能	何時・何時半の時刻について、時計の時刻の読み方や、時計の針の動き方を理解することができる。①、⑤	時計の仕組みを理解し、何時・何時半の時刻について、時計から時刻を読み取ったり、時計の針を正しく動かしたりしている。
思考力 判断力 表現力	時刻の読み方を用いて、時計と日常生活を関連付けることができる。①	短針や長針の動き方に着目して時刻を時計から読み取り、日常生活で起こる出来事と関連付けて考えている。
学びに向かう力 人間性	学んだことの良さや楽しさを感じながら学ぶ態度を養うことができる。④	時計の仕組みを理解するために、友だちと考えを交流することで、時計を読み取る楽しさに気づき、日常生活に生かそうとしている。

3 指導計画とルーブリック (本時 2/2)

次	時	学習活動	ルーブリック		資質	思考ツール
			S	A		
一	1	アニメの始まる時刻を新聞から読み取り、「時計をよめるようになる。」「時刻を聞いて時計の針を動かせるようになる。」ためには、どうしたらいいか考える。	Aに加え、「自分で考えて行動する」という単元のゴールをもとにして、単元計画を考えている。	単元計画を考えている。	④	
	2 本時	○時・○時半の時計の状態を整理して、針の動き方や時刻を読み取る。	Aに加え、○時・○時半の時計の違いを理解し、友だちに説明することができる。	○時・○時半の時計を針の位置に着目して分類し、正しく時刻をよむことができる。	① ⑤	分類する

十月十二日(金) 五校時

指導者 長尾 英里

三原市立糸崎小学校 一年 一組

算数科「とけい(1)」

第二時

授業構成図

本時のねらい

何時・何時半の時計の針の位置の違いを理解し、正しく時刻をよむことができる。
(課題対応能力★)

目指す子どもの姿

S ○時・○時半の時計の針の違いを理解し、友だちに説明することができる。
A ○時・○時半の時計を針の位置に着目して分類し、正しく時刻をよむことができる。

振り返り場面

Aだと判断した子どもの姿
○時・○時半の時計を分類しているが、友だちに説明することができていない。

深い学びの視点

- ① 既有知識を関連付けて考え、一階層上の知識を得る。
- ② 獲得した知識を汎用的に活用する。
- ③ 学習の目的を、より高い目的に価値づける。

見通しや実行方法を発想する場面

⑤ 自力解決をする。★
理由を考えやすくするために、何に着目して分類したのかを個別に助言する。

⑥ 全体で交流する。

C 起きた時刻と家を出る時刻と授業をしている時刻は同じ仲間になります。理由は、全部○時ぴたりだからです。
C 長い針が全部12にきていると思います。

C 給食を食べる時刻と遊んでいる時刻と宿題をしている時刻は同じ仲間になります。理由は、全部長い針が6になっているからです。

T 長い針が6にきている時には、○時半になりますね。短い針はどうなっているのだろう。
C ○時ぴつたりのときには、短い針は数字のところについています。短い針を見たら、何時かが分かります。

C 長い針が6のときには、短い針が数字と数字の間に来ています。
⑦ 学習のまとめをする。
長い針が12のときには、○時。長い針が6のときには、○時半になる。

⑧ 適応題をする。
T 「ちびまるこちゃん」「サザエさん」が始まる時刻を、時計を動かして表しましょう。
⑨ 振り返りをする。
C 長い針を見たら、○時と○時半が分かりました。正しく時計が読めたので、これからは時計を見て行動したいです。

対象と既有の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

課題を見出す場面

① 時計を観察して、気付いたことを交流する。
T 時計を観察してみても、気付いたことを発表しましょう。
C 短い針と長い針がありません。

C 数字が1から12まで順番にかいてありました。
C 時計の針は、右に向かって進んでいます。
T 時計の特徴をたくさん見付けたね。

◆時計の特徴について考えさせるために、一人ずつ模型の時計をもたせる。
T 前の時間に考えた単元のゴールは何だったかな。
C 時計がよめるようになりたい。
C 時計の針をみて、よみたいですよ。

② 問題と出会う。
T いろんな時刻の時計をもってきました。針をよく見て、似ている時計ごとに分けて、時刻がよめるようになろう。
③ 学習課題を立てる。
似ている時計を仲間分けして、時刻がよめるようになろう。

④ ルーブリックを設定する。
T 今日のルーブリックを設定しましょう。
C 似ている時計を仲間分けして、時刻がよめたらAです。
C 仲間分けした理由を説明して、正しく時刻がよめたらSです。

◆Sの設定に関しては、出にくい場合は教師から提示し、児童との対話の中で同意を得て進めていく。
対象と既有の知識との「ズレ」を認識

I チャート

がつ

にち

なまえ (

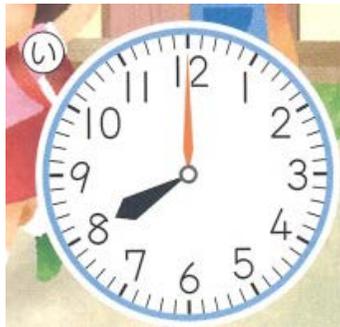
)



あさおきる



きゅうしょく



いえをでる



じゅぎょうをする



そとであそぶ



しゅくだいをする

ながいはりが12のところ。
みじかいはりがすうじのところ。
○じ とよむ。

ながいはりが6のところ。
みじかいはりがすうじとすうじの
あいだ。○じはん とよむ。